

令和5年度アート体験プログラム 「アトラボぎふ」について

1 趣 旨

堅苦しく敷居が高いイメージがつきまとう「アート」。一人でも多くの県民がこの壁を乗り越え、「アート」や「美術」を身近に感じ、親しみ、美術や芸術は普段の生活の身近なところにもあるのだと気づき、参加するきっかけとなるような岐阜県ならではの体験型プログラムを実施する。

そのために、本県の「清流」が磨き、育んだ「匠の技・工芸」や「伝統文化」などともコラボレーションし、それら多様な領域をつなぎ、「面白そう」「ちょっと覗いてみたい」と多くの方々に思ってもらえるような、参加型の新たな取組み（プログラム）を全圏域で展開する。

あわせて、アートに造詣が深い方々を対象に、美術館、博物館などの専門施設との協働により、技術力の向上などにつながる取組みを実施する。

これにより、県民の文化芸術水準の向上をはじめ、新しい「ぎふ美術展」への参加者の増加や関心を高め、将来、清流の国ぎふ芸術祭－Art Award IN THE CUBE（以下、「AAIC」という。）などへの参画も視野に入れた人材育成にもつながることを目指す。

2 事業の目標

- ・裾野を広げる
- ・技術、知識の向上を図る
- ・ぎふ美術展やAAICなどへの参画を目指す人材を育成する

3 具体的なプログラムの内容

（１）多方面からアートへの関心を高める講座

- ・アートに触れる足掛かりとなり、もっと知りたい・触れたいと思えるような知的好奇心を刺激する講座

① 自由表現講座（１回）

講 師：未定

会 場：未定

内 容：マスク生活から離れ、自己表現と健康を両立できるような日々に関わる身体表現講座。

（２）画材の特質、画面構成など、作品を創作する楽しさを味わう講座

- ・創作の楽しさを体感するとともに、技術の向上を図り、今後の制作活動に役立つ内容の講座

② 日本画実技講座（１回）

講 師：長谷川喜久氏（日本画家・名古屋芸術大学教授）

会 場：未定

内 容：毎年大好評のプログラムであり、毎回違った技法を伝授
制作作品はぎふチャンアートギャラリーでグループ展を開催

③ 写真実技講座（２回）

講 師：野村佐紀子氏（写真家）

会 場：未定

内 容：写真による文通を通して想いを伝える写真の撮り方を学ぶ

④ 書実技講座（１回） 講 師：横山豊蘭氏（書道家・アーティスト） 会 場：未定 内 容：書の歴史や成り立ちなどの背景、日本画との融合性を意識しつつ、現代アートとの接点や「書く」という行為を体験する
⑤ 篆刻実技講座（１回） 講 師：波多野公一氏（岐阜県書作家協会常任理事） 会 場：未定 内 容：篆刻の歴史と実技講座
⑥ 彫刻実技講座（２回） 講 師：神戸峰男氏（日本芸術院会員・名古屋芸術大学名誉教授） 会 場：未定 内 容：第１回で彫刻を制作し、それを焼成したものを後日展示・鑑賞などを行う
⑦ 映像制作講座（１回） 講 師：未定 会 場：未定 内 容：芸術の分野で映像が伝えてきた力や魅力を再認識し、ショートストーリーの映像を制作する講座

（３）「清流」が育んだ「伝統文化」と「アート」が融合し、そのつながりを学ぶ講座

・岐阜とアートをつなぐオリジナルプログラム

⑧ 自由表現実技講座（１回） 講 師：ひびのこづえ氏 会 場：未定 内 容：「ちいさな生きものブローチ作り」のワークショップと伝統文化などとコラボしたパフォーマンス公演
⑨ 芸術を支える道具講座（１回） 講 師：未定 会 場：未定 内 容：芸術の世界には必ず道具が介在しており、岐阜県ならではの道具などに着目した講座

（４）創作活動や鑑賞体験、プロデュースなどに関わる相談会

・創作活動に係る様々な悩みをはじめアートに関わる人々の悩みに答える気軽な「相談場所」の構築と作家のネットワークづくりに資する講座

⑩ アートのお悩み相談会&作品講評会（１回） 講 師：立島恵氏（佐藤美術館学芸部長） 会 場：未定 内 容：創作活動や鑑賞・プロデュースなどアートに関わる人のお悩みに講師が回答、併せて制作作品に対するアドバイスも行う

※各プログラムで未定の箇所、回数及び開催時期等については、岐阜県、財団及び財団が指定するディレクターと受託者とが協議のうえ決定するものとする。